延岡市文化財調査報告書　第39集

山田遺跡（第3次）

延岡市小川町携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009年
延岡市教育委員会

序　文

日頃より本市の埋蔵文化財の保護・活用に対し、深い御理解と御協力をいただき厚く感謝申し上げます。

延岡市教育委員会では、市内における開発諸事業との調整を図りながら発掘調査を行っています。この報告書は、延岡市小川町で計画された携帯電話無線基地局建設に伴う、山田遺跡（第３次）埋蔵文化財発掘調査の記録です。近年の調査において、山田遺跡は旧石器時代～中世期までの複合遺跡であることが解明されつつあります。今回の調査では、旧石器時代の遺物のみの出土でしたが、その遺跡の広がりを知る一つの資料となります。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、幅広く活用されれば幸いです。

調査にあたっては、地権者並びに開発事業者、小川町の方々に御協力をいただきました。また、ご支援をいただいた関係諸機関、調査および整理に参加された作業員の皆様に、心から感謝の意を表します。

平成２１年３月

延岡市教育委員会

教育長　町田　訓久

例　言

1．本書は携帯電話無線基地局建設に伴い、2008年に実施された埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ執行役員九州支社長より委託され、延岡市が受託し、延岡市教育委員会が調査を実施した。

3．現地での実測、写真撮影等の記録は発掘作業員の補助を得て、尾方農一が行った。空中写真撮影は、九州航空株式会社に委託した。

4．整理作業は延岡市教育委員会で行い、出土遺物の写真撮影・実測・製図等については、整理作業員の補助を得て尾方が行った。

5．本書における方位は磁北を示し、レベルはすべて海抜高である。

6．本書の執筆および編集は尾方が行った。

7．出土遺物および調査記録類は、延岡市教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに

第1節　調査に至る経緯……1

第2節　調査の組織　……1

第3節　位置と環境　……1～3

第Ⅱ章　調査の概要

第1節　調査の経過　……5

第2節　遺跡の層序　……6

第3節　調査日誌　……7

第Ⅲ章　調査の記録

第1節　旧石器時代の概要……9

第2節　旧石器時代の遺物……9

①ナイフ形石器……9

②掻　　器……9

③礫　　器……9

④剥　片　等……9

⑤石　　核……9

第Ⅳ章　まとめ……17

挿図目次

Fig.1　山田遺跡（第3次）位置図

Fig.2　山田遺跡（第3次）周辺地形図……2

Fig.3　調査区及び土層断面図(1/80) ……4

Fig.4　出土遺物分布図(礫)……8

Fig.5　出土遺物分布図(旧石器) ……10

Fig.6　出土遺物実測図1 ……11

Fig.7　出土遺物実測図2 ……12

Fig.8　出土遺物実測図3 ……13

表目次

第1表　出土遺物観察表……14～16

図版目次

PL. 1　出土遺物1 ……18

PL. 2　出土遺物2 ……18

PL. 3　出土遺物3 ……18

PL. 4　遠景（西側より）……18

PL. 5　遠景（南側より）……18

PL. 6　全景（空撮）……18

PL. 7　遺物等出土状況……19

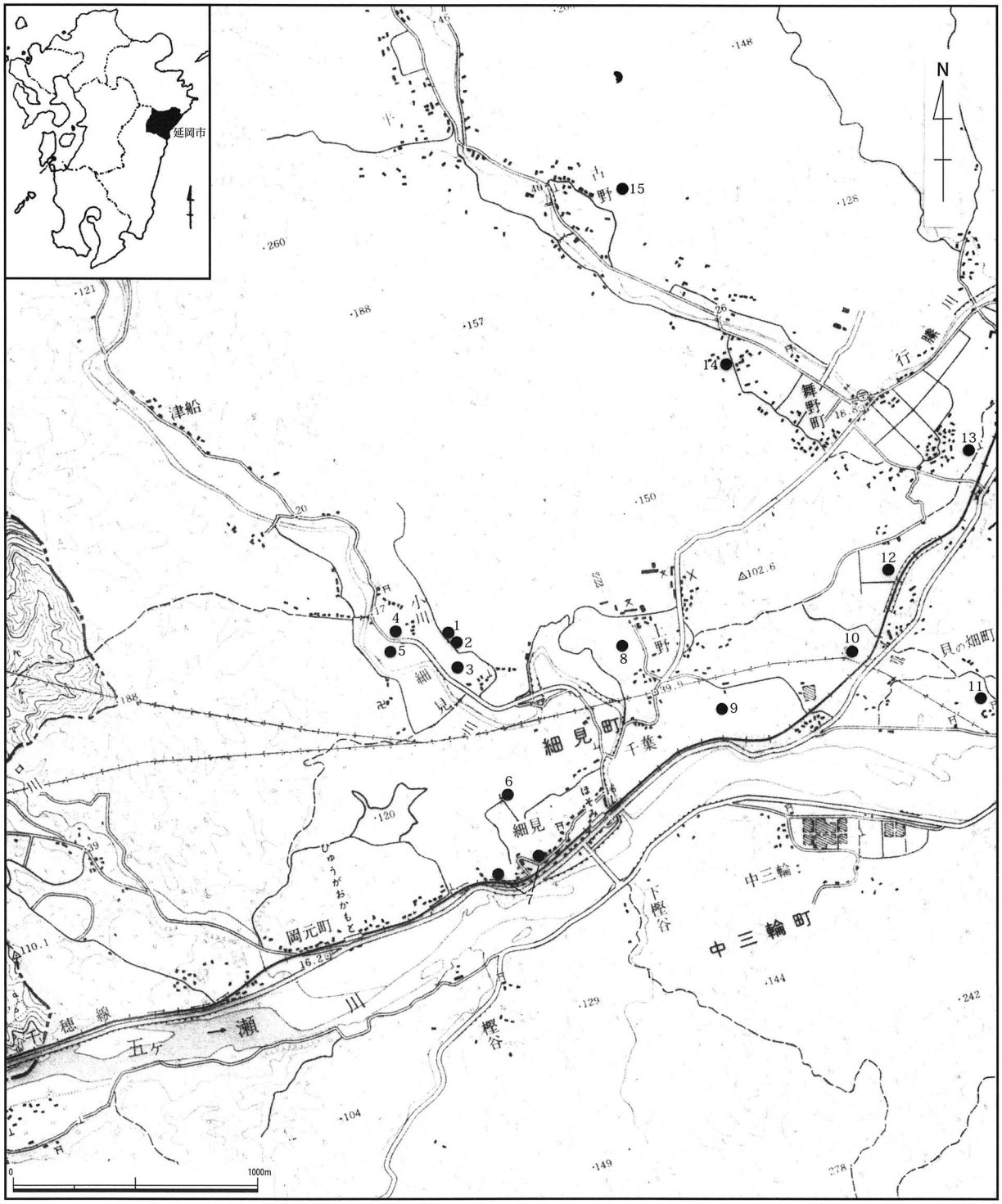
PL. 8　遺物等出土状況……19

PL. 9　全景（Ⅶ層上面）……19

PL.10　旧地形落ち込み……19

PL.11　土層状況……19

PL.12　作業風景……19



1.山田遺跡（第3次）	2.山田遺跡	3.畑山遺跡	4.山口遺跡	5.山口遺跡第2地点
6.中尾原遺跡	7.細見古墳	8.上野遺跡	9.黒土田遺跡	10.竹下遺跡
11.貝の畑遺跡	12.多々羅遺跡	13.赤木遺跡	14.舞野遺跡	15.苺田窯跡

Fig.1　山田遺跡（第3次）位置図　（1/25,000）

第Ⅰ章　はじめに

第1節　調査に至る経緯

昨今、移動通信に対する需要は増大し、利用形態も多様化している。それに伴い通信各社は通話品質・サービスの向上を目指し、新たな無線基地局の設置が増加している。また、大手通信会社等は災害対策基本法〔昭和36(1911)年法律第223号〕第2条第5号の規定に基づく指定公共機関の指定を受け、その社会的な責務も増大している。

調査地の南には、平成20(2008)年4月に一般国道218号線北方延岡道路の舞野IC～北方IC間が開通している。その路線及び周辺地区の通信環境の整備のため、当調査地が無線基地局建設の候補地となった。北方延岡道路は、国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の高規格幹線道路整備事業として、延岡市天下町(天下JCT)～延岡市北方町子(北方IC)間の延長11kmである。平成8(1996)年度から事業が実施されている。それに伴い、調査地の南隣で平成14(2002)年度～16年度にかけて、宮崎県埋蔵文化財センターが山田遺跡(Fig.1-2)の発掘調査を行った。

今回の調査地は山田遺跡内にあたり、文化財保護の観点から建設地の変更等について協議を行った。しかし、通信状況などの諸条件を満たす適地が現地以外にないことから、やむを得ず記録保存を行うこととなり、発掘調査を行うこととなった。本調査の期間・経費等の見積のため、平成20(2008)年10月15日～10月31日の期間で確認調査を実施した。その結果を基に協議を行い、平成20年11月20日に株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ執行役員九州支社長と延岡市間で『埋蔵文化財に関する協定書』及び『平成20年度埋蔵文化財発掘調査委託契約書』が締結された。本調査は平成20年12月3日～12月26日の期間で実施し、費用負担は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモが行った。

第2節　調査の組織

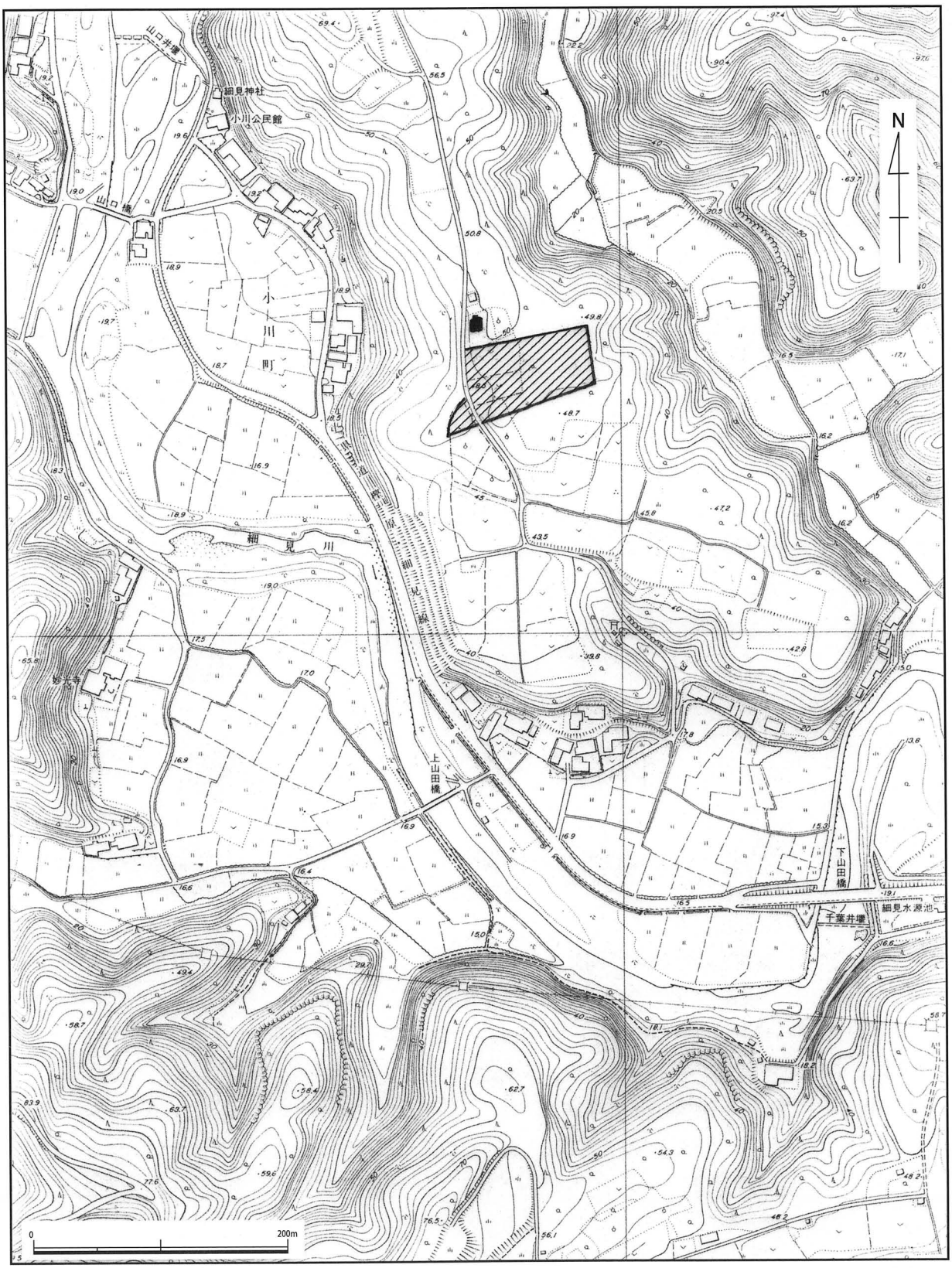
調査主体　延岡市教育委員会

教育長	町田　訓久
教育部長	笠江　孝一
カルチャーゾーン担当副参事 兼文化課長	渡邉　博吏
文化課長補佐兼文化振興係長	大島紀世子
文化課文化財係長	赤星　清次
庶務担当	
文化課文化振興係主任主事	松岡　直子
調査担当	
文化課文化財係主任主事	尾方　農一

第3節　位置と環境

延岡市(Fig.1)は宮崎県の北部に位置し、九州山地や大崩・祖母・傾山系に源を発し、日向灘に注ぐ五ヶ瀬川・北川・祝子川の下流域にあたる。これらの河川によって形成された沖積平野に市街地や住宅地、工場地帯が広がり、県北部の中心都市となっている。自然環境を利用し、古くから農林水産業が盛んである。また、豊富な水資源を利用した電気化学工業を中心とする県内有数の工業集積地でもある。中心市街地には近世延岡藩主の居城であった延岡城跡が立地し、「千人殺し」と呼ばれる石垣を中心に、石垣群が残っており、近代都市景観と歴史的景観が融合する街並みが形成されている。

山田遺跡の所在する小川町は五ヶ瀬川の支流、細見川の中下流域に点在する集落である。細見川は北方町の国見山(1391.5m)と桧山(1123m)に挟まれる西谷を源とし、小河川を集めて複雑に蛇行しながら南流し、遺跡の南東約1.3kmで五ヶ瀬川に合流する。遺跡の所在する台地の西裾部の小規模な河岸段丘上に現在の集落が営まれ、細見川の



■山田遺跡（第3次）

▨山田遺跡：平成14（2002）年～平成16（2004）年　宮崎県埋蔵文化財センター

Fig.2　山田遺跡（第3次）周辺地形図　（1/5,000）

氾濫原低地に水田が営まれている。

小川町と下流の細見町では、多くの旧石器～中世にかけての遺跡が点在している。前述の細見川の氾濫原低地では、平成2(1990)年に山口遺跡(Fig.1-4)、平成14(2002)年に山口遺跡第2地点(Fig.1-5)の調査が行われている。山口遺跡では、掘立柱建物跡や五輪塔の集積などの遺構が検出され、古墳時代の土師器や古代～近世にかけての遺物が出土している。山口遺跡第2地点では、古墳時代中期～後期にかけての竪穴住居跡38軒をはじめ、多くの遺構や遺物が出土している。また、山田遺跡の所在する台地の南縁辺部では、平成2年に畑山遺跡(Fig.1-3)の調査が行われている。姶良Tn火山灰層(AT)下位でナイフ形石器、礫器、剥片、チップ等が出土し、AT上位で剥片尖頭器等の旧石器が出土し、また滑石製石鍋、土師質土器などの中世までの幅広い遺物が出土している。また、縄文時代後期の方形住居跡1軒、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の住居跡5軒等の遺構を検出している。

五ヶ瀬川と細見川の合流点の北西に広がる、標高約50mの台地上には、平成元(1989)年～平成3年にかけて中尾原遺跡(Fig.1-6)の調査が行われている。中尾原遺跡は県北有数の集落遺跡で、弥生時代後期後半～古墳時代後期の竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡2軒、百基以上の土坑が検出されている。旧石器～縄文時代にかけての遺物も出土している。また、合流点より北東に広がる台地上には、黒土田遺跡(Fig.1-9)が所在する。平成14(1994)年～平成15年に調査が行われ、弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期の円墳周溝1基等の遺構を検出している。旧石器ではナイフ形石器、剥片尖頭器、細石核等が出土している。

今回の調査地は前述のように、平成14(2002)年度～16年度にかけて、宮崎県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った山田遺跡の南隣にあたる。その詳細は『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集　山田遺跡』(2007年　宮崎県埋蔵文化財センター)に記載されているが、今回の調査地と密接な関係があるため、ここに概略を記したい。報告では旧石器時代をⅠ～Ⅳ期、縄文時代早期・晩期、弥生時代、中世の8時期にわけて遺構・遺物を考察している。

旧石器時代は姶良Tn火山灰層下位にⅠ・Ⅱ期、姶良Tn火山灰層上位にⅢ・Ⅳ期の計4期としている。Ⅰ期は姶良Tn火山灰層下位の暗色帯最下部～段丘礫層上位の明褐色ローム上面にかけてで、礫器を中心とした石器群である。Ⅱ期は姶良Tn火山灰層直下で、ナイフ形石器やスクレイパーが出土している。Ⅲ期は10基の礫群に伴う大量の石器群である。Ⅳ期は細石刃石器群を含む段階である。遺構として陥し穴状遺構7基が検出されている。縄文時代早期では、集石遺構44基、炉穴群11群・約135基、円形配石遺構4基、竪穴状遺構1基、土坑27基、配石遺構1基と多くの遺構を検出している。また、遺物も土器1,767点、石器2,425点と豊富である。遺構・遺物ともに、この遺跡で最も多く、この遺跡の隆盛期であったことが伺われる。縄文時代晩期は土坑6基とほぼ完形に復元された土器が出土している。弥生時代は周溝墓2基、土壙墓5基、土坑3基、竪穴住居跡1軒を検出している。弥生時代終末期の遺物が出土している。前述の中尾原遺跡が、立地や条件がほぼ同じであるが、中尾原遺跡が集落遺跡であるのに対し、この遺跡は墓域の様相を呈している。中世期の遺構としては、掘立柱建物跡1棟と溝状遺構等が検出されている。

[参考・引用文献]
「上南方地区遺跡　中尾原遺跡　山口遺跡」『延岡市文化財調査報告書』第6集　延岡市教育委員会　1991
「上南方地区遺跡　中尾原遺跡　畑山遺跡」『延岡市文化財調査報告書』第8集　延岡市教育委員会　1992
「延岡市の文化財」　延岡市教育委員会　2001
「山口遺跡第2地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第99集　宮崎県埋蔵文化財センター　2005
「山田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第146集　宮崎県埋蔵文化財センター　2007

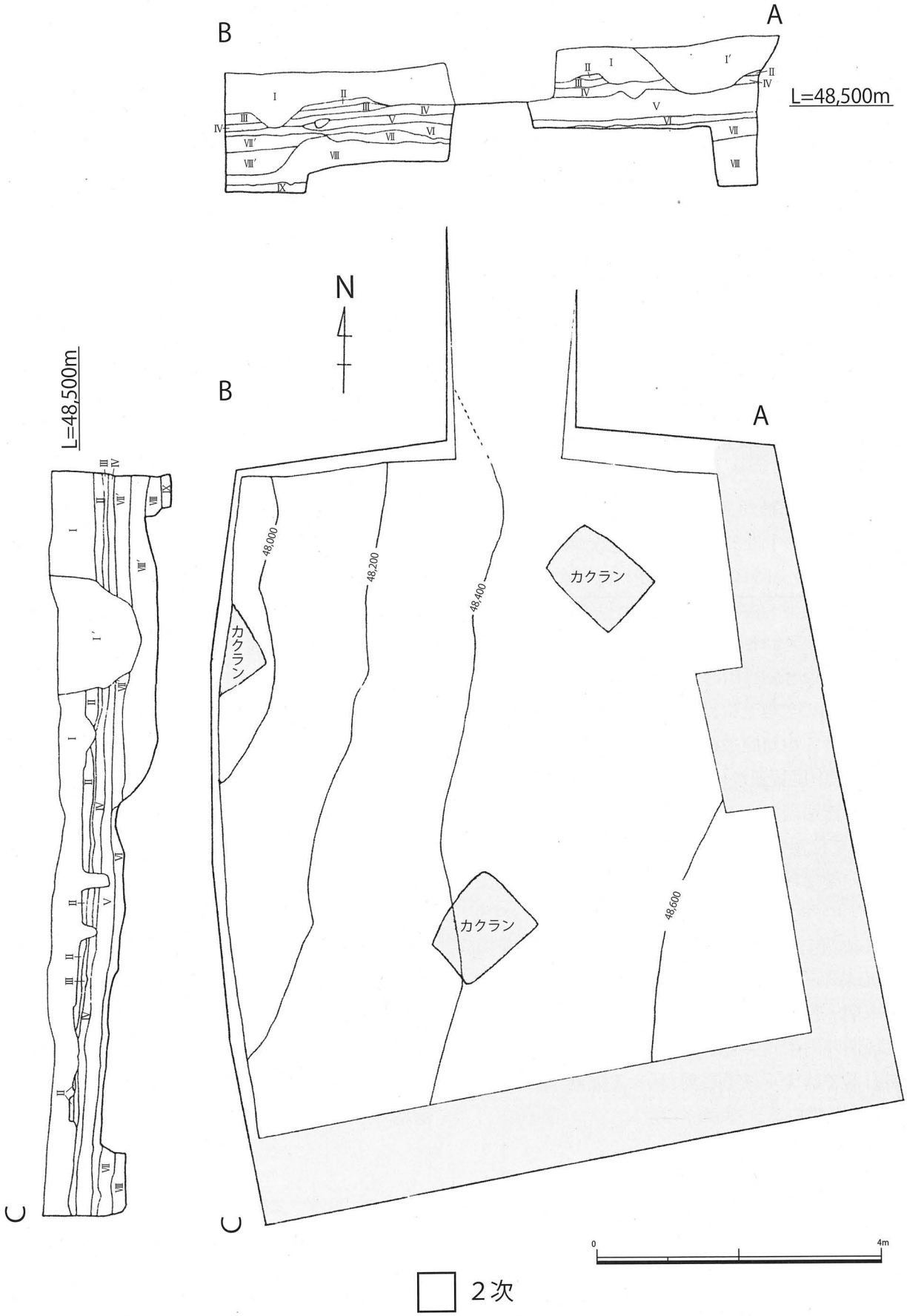


Fig.3　山田遺跡（第3次）調査区図及び土層断面図（1/80）

第Ⅱ章　調査の概要

第1節　調査の経過

今回の調査地点は、確認調査の山田遺跡（第2次）調査、本調査の山田遺跡（第3次）調査を実施している。実施期間は以下のとおりである。

確認調査（第2次）
平成20(2008)年10月15日～10月31日

本 調 査（第3次）
平成20(2008)年12月3日～12月26日

調査地は確認調査実施前は、全面にわたって竹が密集していた。また、それ以前はキウイフルーツの作付けが行われており、その支柱やコンクリート基礎が残っている状況であった。これらを撤去した後に、確認調査を実施した。

確認調査は遺構・遺物等の残存状況や、調査地の土層堆積状況を確認するために行った。調査区の東端に南北方向のトレンチ１を、南端に東西方向のトレンチ２を設定した。山田遺跡（第Ⅰ章　第3節／Fig.1-2／Fig.2）の調査で、竪穴住居跡等を検出した鬼界アカホヤ火山灰層（Ⅱ層）は、竹根や耕作による削平は見られたが、一部に遺存している状況が確認できた。しかし、この時期の遺物等の出土はなかった。竹根や後世の撹乱の影響が少なくなるのは、茶褐色土層（Ⅴ層）以降であった。山田遺跡の調査では、明褐色土層（ＸⅠ層）において遺物が出土していることを鑑み、確認を行ったが遺物の出土はなかった。

本調査の調査区の設定は、調査対象面積が約100㎡と狭いことから、全域を１つの区として調査を行った。山田遺跡の調査結果及び確認調査の結果を考慮し、鬼界アカホヤ火山灰層（Ⅱ層）の検出及び上面の精査から開始した。重機による表土剥ぎを行い、その後、鬼界アカホヤ火山灰層上面で精査を行った。しかし、予想以上に撹乱による削平を受けていた。方形の掘り込み3ヶ所が確認され、それぞれの調査を行った。3ヶ所ともに重機による爪跡と判断された。この面において遺構・遺物は検出されなかった。山田遺跡で最も遺構・遺物ともに密度の高かったⅢ層も、予想以上の撹乱を受けており、遺存状況があまり良くなく、本調査においては礫の集中した出土も確認されなかった。Ⅳ層以降については、確認調査の結果を基に層毎に掘り下げを行い、遺物の取り上げ等を行った。Ⅳ層に礫が散見し、中に剥片等が混じっていた。出土遺物の大半はⅤ層より出土している。Ⅴ層は礫の出土も多く、一部に集中して見られ、礫群として1/10での図面作成を行った。出土した遺物の量は以下のとおりである。

Ⅲ　層	石器	１点（第2次）
	礫	２８点（第2次）
Ⅳ　層	石器	３点（第3次）
	礫	６０点（第3次）
Ⅴ　層	石器	３０点（第2次・第3次）
	礫	８４点（第2次・第3次）
撹乱中	礫	２点（第3次）
遺物総数	２０８点（石器34点・礫174点）	

比較的に撹乱等の影響が少ないⅤ層上面で、20cm毎の等高線を用い地形測量を行った（Fig.3）。調査区の北西方向に緩い傾斜があることが確認された。この他に地形測量は、Ⅶ層上面でも同様に行っている。この北西方向の傾斜は、現地の現地形において、調査区にむけて西より伸びる谷の影響と判断された。しかし、調査が進むにつれて調査区北西方向での土層状況に変化がみられた。そこで、調査区の北西隅に向けサブトレンチを設定した。その結果、Ⅷ層に急激な落ち込みが確認され、谷は現在よりも深かったことが伺える。土層状況の変化は、その谷の作用による二次堆積であった。

第2節　遺跡の層序

山田遺跡は北東に行縢山をのぞみ、五ヶ瀬川の支流である細見川左岸の標高約50mの台地上に立地する。台地の基盤は主として阿蘇4火砕流(約9万年前)堆積物である。延岡市、特に五ヶ瀬川流域に広がる台地では、この阿蘇４火砕流と姶良Tn火山灰層、鬼界アカホヤ火山灰層が鍵層となり、明瞭な年代対比が可能な堆積を見せる。今回の調査でも、その典型的な層序が確認された。ただし、前述のように調査区の北西部では、旧地形による二次堆積層が確認されている。

山田遺跡(第3次)の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層:表土層(黒色土)

現代の植生土、耕作土。竹根及びキウイフルーツ等の作付時に攪乱を受けている。赤化した礫片や細かい土器片が混在する。層厚は平均して50～60cmを計る。撹乱の最も深いものは、地表より120cmの深さでⅥ層上面に達する。

Ⅱ層:鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)

竹根とキウイフルーツの温室の基礎跡等、後世の撹乱が激しく、一部で良好な堆積が見られるものの、遺構・遺物等は検出されなかった。層厚は厚い所で約20cmを計る。

Ⅲ層:黒色土層

この面も撹乱の影響を著しく受けている。確認調査においては、この面より礫等を検出している。山田遺跡(第Ⅰ章　第3節)の調査におけるⅢ～Ⅳ層にあたると考えられる。山田遺跡の調査では、縄文時代早期の遺構・遺物が多く検出されている層である。しかし、今回の調査では遺物・遺構とも検出されていない。層厚は平均して10cm前後である。

Ⅳ層:黒褐色土層

硬く締まる層である。Ⅴ層へ漸移する。礫がある程度まとまって出土している。層厚は約5cm～15cmと一定しない。

Ⅴ層:茶褐色土層

褐色ロームとも呼ばれ、明るい色調の粘性のあるやや軟質の土質を持つ層である。調査区全体に安定して堆積している。周辺の調査では分層されることも多いが、今回の調査では明瞭に分層することが出来なかった。今回の調査で、最も出土遺物が多かった層である。また、この層より下位の層では遺構・遺物の出土はない。層厚は厚い所で約50cm、北西に向かって薄くなり10cm前後となる。

Ⅵ層:淡黒褐色土層

色調が暗くなる。上位白斑ローム層とも呼ばれる層である。部分的にブロック状に固まる。層の下位にその傾向が強く、部分的にⅦ層の混入が見られる。層厚は平均して約10cmである。

Ⅶ層:姶良Tn火山灰層(AT)

調査区全域に良好に堆積している。層厚は厚い所で約40cmを計る。北西の台地縁辺部に向けて、堆積は薄くなり、谷部で二次堆積層へと移行する。

Ⅷ層:黒褐色土層

強く固化し、乾燥するとクラックが入り、ブロック状に剥落する。白斑ロームと呼ばれる層である。調査区の北西隅で急激な落ち込みを見せる。非常に厚く60cm以上堆積している部分もある。

Ⅸ層:明褐色土層

非常に明るい色調で、粘性が高い土である。今回の調査では、限られた一部を掘り下げたのみである。

この他に撹乱土のⅠ′層、二次堆積層としてⅦ′層・Ⅷ′層を分層している。

第3節　調査日誌

平成20(2008)年12月3日～5日

調査地の確認と発掘用具等の準備を行う。また、簡易トイレの設置や駐車場等の確認を行った。

12月8日

重機を搬入し、地権者の好意により提供していただいた隣地を整地し、残土置き場を確保した。重機や簡易トイレ等の搬入により、汚れた周辺等の清掃や、駐車場地の除草、用具置き場の整理などを行った。

12月9日

重機により確認調査時の残土の移動及び調査区の表土剥ぎを行った。表土剥ぎ後の精査を人力により行った。検出された方形の掘り込みを半裁する。

12月10日

Ⅱ層を重機により除去した。人力による精査後、Ⅲ層を掘り下げる。全面にⅣ層を検出した時点で、撮影及び平板測量を用い、20cmの等高線で地形図を作成する。方形の掘り込みは、撹乱穴であることを確認した。

12月11日

重機は残土の積み上げを行う。重機の作業は半日で終了した。平板測量の続きを行うと同時に、Ⅳ層の遺物の取り上げを行う。

12月12日

Ⅴ層の掘り下げを開始する。礫の出土が増え、一部集中して出土した。また、ナイフ形石器や掻器等が出土した。

12月15日～16日

Ⅴ層～Ⅵ層上面まで掘り下げる。

12月17日

礫集中部の3ヶ所の実測(1/10)を行った。Ⅴ層の遺物の取り上げを行う。

12月18日

Ⅵ層の掘り下げを行う。礫集中部の撮影を行う。

12月19日

Ⅵ層の掘り下げ。4ヶ所目の礫集中部の実測(1/10)を行う。調査区の北西にサブトレンチを設定した。Ⅷ層の急激な落ち込みを確認した。

12月22日

調査区全体を清掃する。調査区の北・西壁の土層断面図を作成(1/20)。北西隅の旧地形の落ち込みを掘り下げる。

12月24日

土層図作成の続き。全面清掃後、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行う。撮影後、Ⅶ層上面で20cmの等高線で地形図を作成した。確認調査時のトレンチ1のⅧ層を掘り下げる。

12月25日

Ⅷ層掘り下げの続き及びⅨ層の掘り下げを行う。本日より重機による埋め戻し作業を開始する。簡易トイレの汲み取り、撤収を行う。

12月26日

重機による埋め戻しを行う。現場の作業道具等を搬出し、現場周辺の清掃を行い、現地での作業を終了する。

平成21(2009)年1月8日

現地作業で使用した作業道具等の手入れ及び整理を行う。出土遺物の洗浄した。

1月9日

出土遺物の洗浄の続き及び整理を行った。

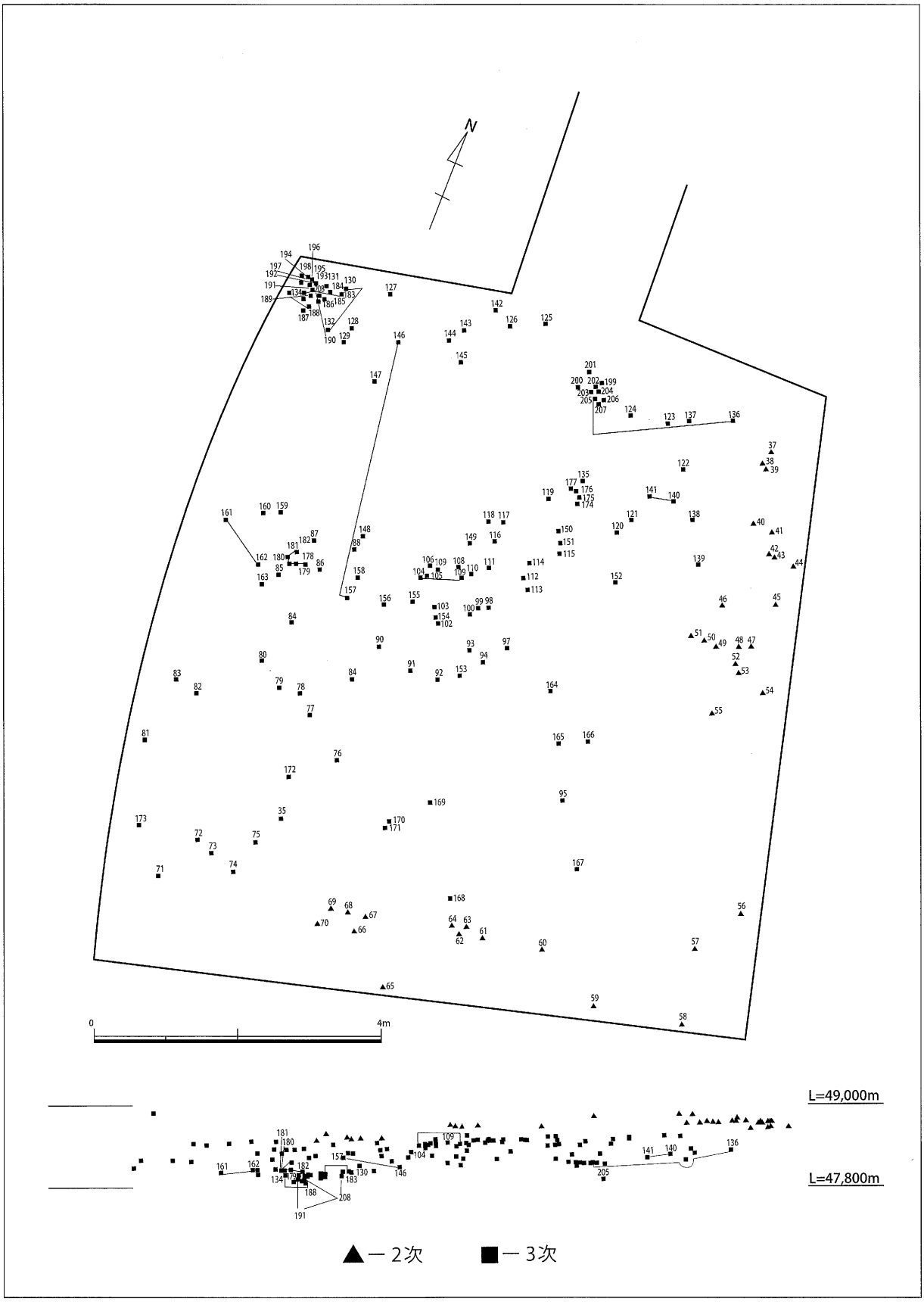


Fig.4　出土遺物分布図（礫・1/80）

第Ⅲ章　調査の記録

第1節　旧石器時代の概要

確認調査及び本調査で出土した遺物は、石器35点(Fig.5)、礫(Fig.4)173点の計208点である。Ⅲ層～Ⅴ層が出土層であるが、石器はほぼⅤ層より出土している。調査区東側に石器の集中部が見られるが、その他は比較的に散漫な出土状況である。敲石や細片などの石器製作にかかわる遺物は出土していない。Ⅲ層出土の礫器・礫は縄文時代早期のものであるが、まとめて報告させていただく。

礫にも一部集中が見られる。集中部は4ヶ所を認めたが、北西隅の集中部は谷部の始まりに重なっている。地形的な要因が大きいと判断されるが、礫間での接合が最も多く見受けられた。その他の3ヶ所についても、掘り込みや規則性を確認できなかった。宮崎県埋蔵文化財センターが調査した山田遺跡の報告では、旧石器時代Ⅲ期の礫群に弧を描くような分布が指摘されている。今回の3ヶ所についても、弧を描くような分布が見られるが、報告書が指摘する4点に類似点は見受けられなかった。9個(計22点)の礫が接合した。

第2節　旧石器時代の遺物

①ナイフ形石器(Fig6)

2次調査で1点、3次調査で1点の計2点が出土している。

10は2次調査時に出土している。流紋岩製で、厚さが1.3cmと厚みのある剥片を使用している。主要剥離面方向からの剥離が、背面に巡っている。左側面に刃潰し加工が見られ、ナイフ形石器と判断する。腹面にも剥離が見られる

17は頁岩製で、両側縁に刃潰し加工を施した、基部加工のあるナイフである。

②掻器(Fig6-24)

今回の調査では、1点のみの出土である。流紋岩製で礫面を残している。左側縁～下縁にかけては、礫面側からの剥離で刃部を作出し、上縁～右側縁にかけては主要剥離面側より調整を施した刃部を持つ。

③礫器(Fig6-3)

2次調査時に出土した、大形の片面礫器の1点である。Ⅲ層出土であり、時期は縄文時代早期と考えられる。扁平な隅丸長方形の礫(砂岩)に、背面側からの連続した大きな剥離を行い、刃部を形成している。

④剥片等(Fig7)

2次調査、3次調査合わせて28点の剥片が出土している。流紋岩－24点、頁岩－3点、チャート1点である。本報告では、その一部を掲載する。27と1・8は2次調査時の出土である。

27は流紋岩で不定形の比較的大きな剥片である。右側縁部から下縁部に、使用痕と思われる微細な剥離が認められる。1と8は接合資料で、分割された剥片である。やや深さが異なる出土であった。16は頁岩で礫面を残す。30・15・26は流紋岩で、30は礫面を残す。26は打面調整の痕跡が残る。

⑥石核(Fig8)

2点の石核が出土している。ともに流紋岩である。

21は表面の風化が進んでいる。大きな節理があり、礫面を多く残す。礫面側からの剥離が認められる。また、節理面側からの連続的な剥離も認められる。

19は剥片1点(33)との接合資料である。礫面を残す。打面を形成し、打面から一定方向の剥離が認められる。

Fig.5　出土遺物分布図(旧石器)1/80

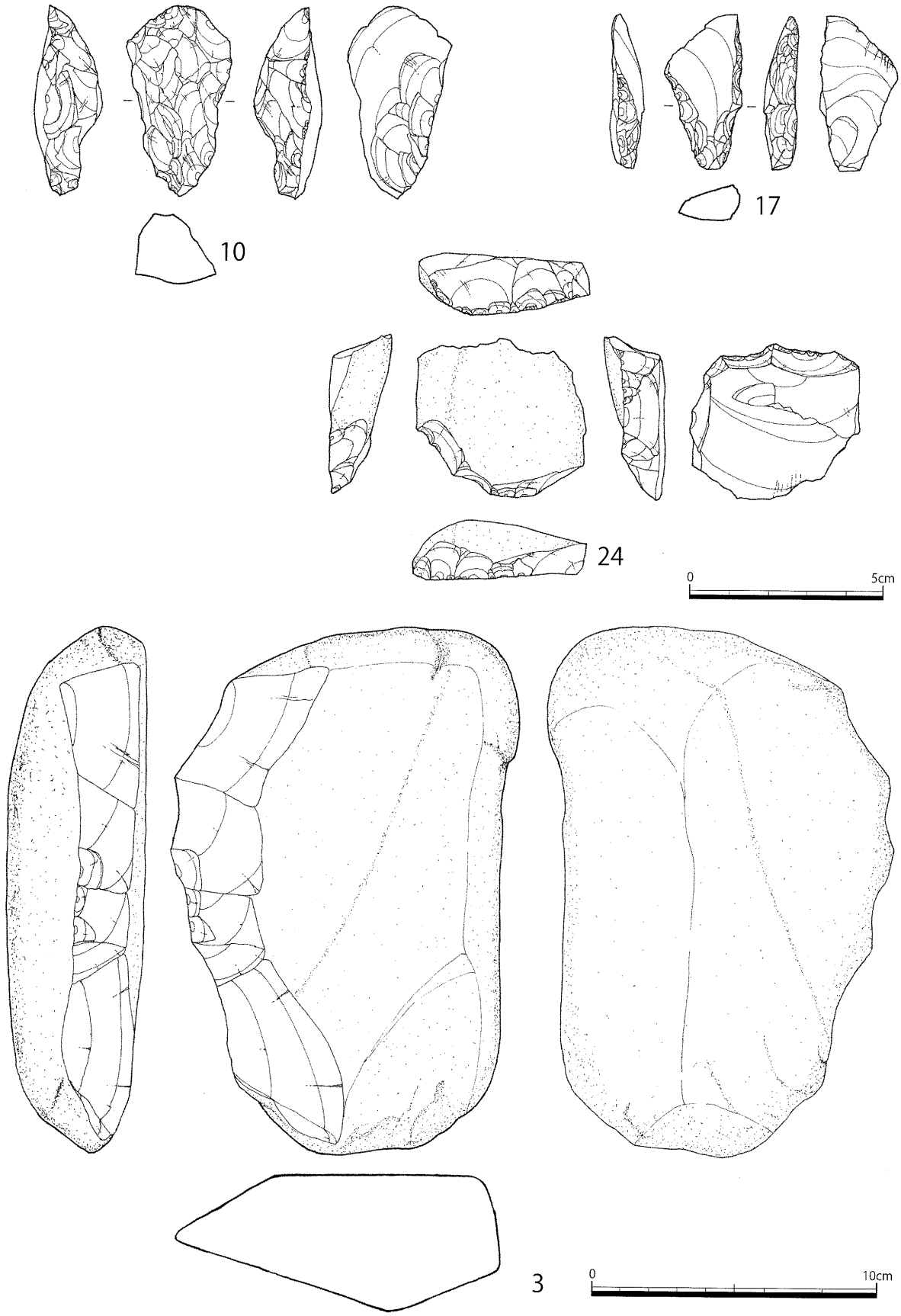


Fig.6　出土遺物実測図1　（2/3・1/2）

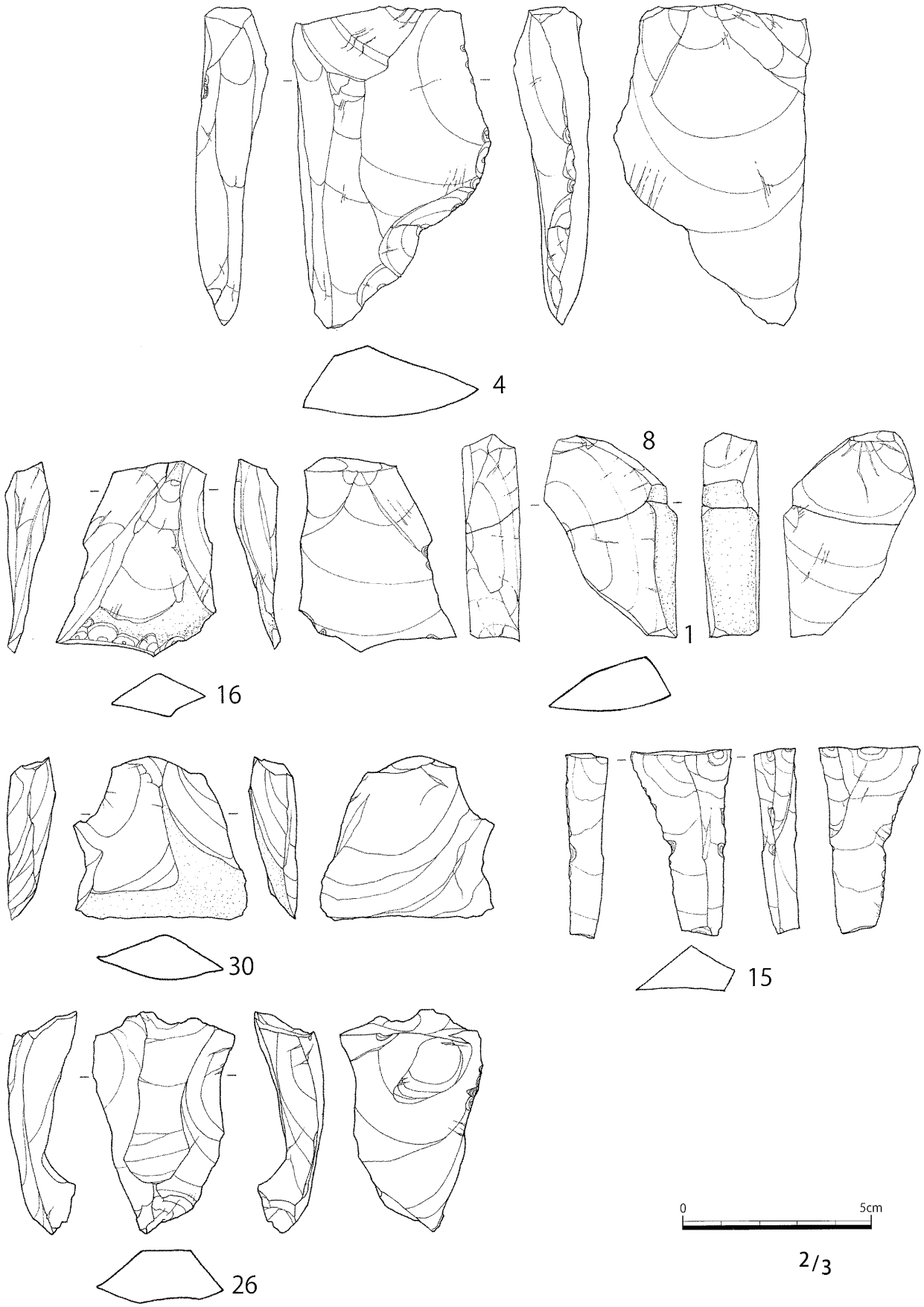


Fig.7　出土遺物実測図2　(2/3)

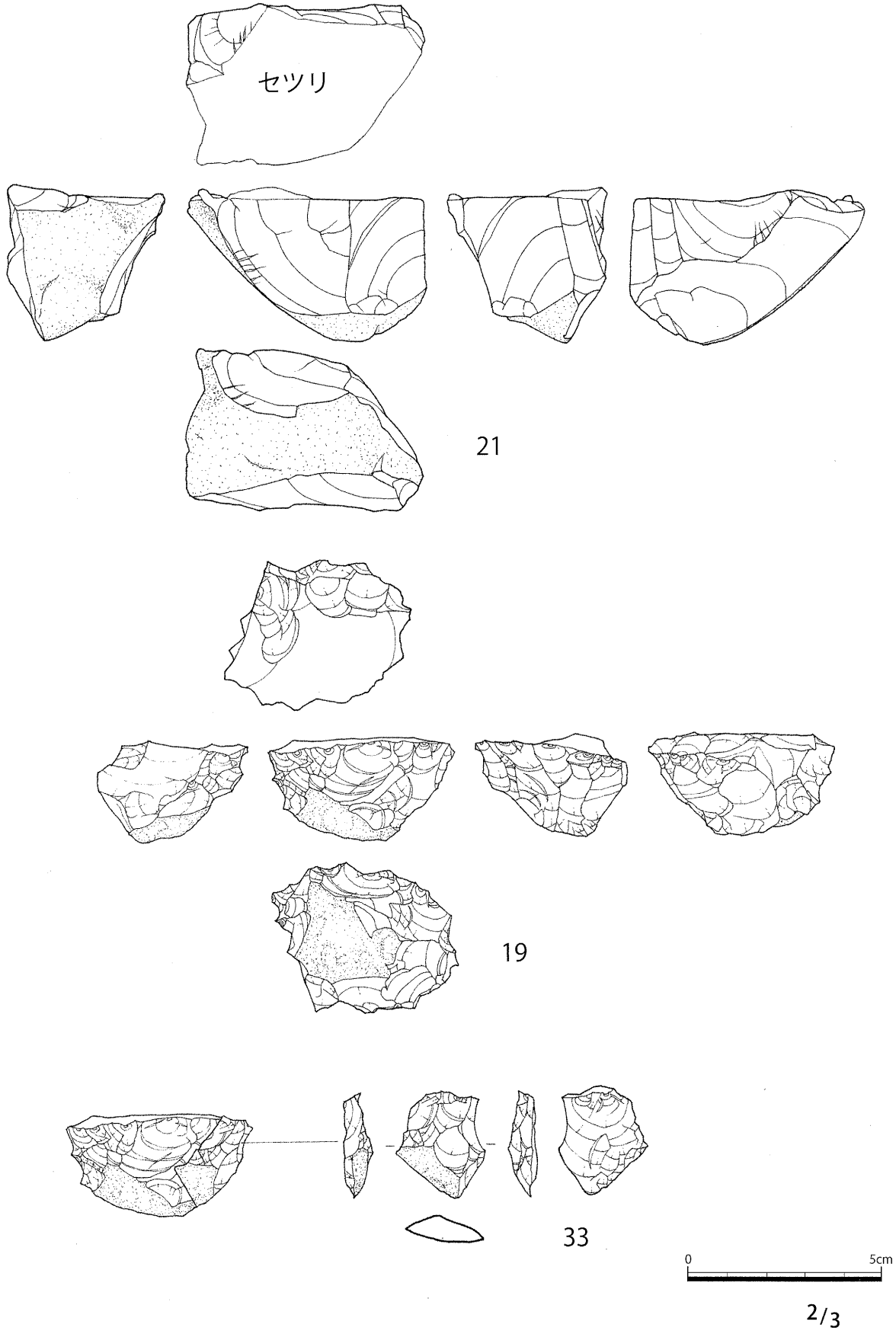


Fig.8　出土遺物実測図3　(2/3)

第１表　出土遺物観察表

報告書番号	遺物番号	調査次	層	器種	石材	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	レベル(cm)	接合状況
1	S1	2次	V	剥片	rh	3.2	3.0	1.2	16.0	48.874	8
2	S2	2次	V	剥片	rh	5.0	4.6	1.3	31.6	48.828	
3	S3	2次	Ⅲ	礫器	ss	18.4	9.8	4.8	1400.0	48.897	
4	S4	2次	V	使用痕剥片	rh	8.5	5.2	1.9	70.4	48.370	
5	S5	2次	V	剥片	rh	1.9	1.6	0.7	1.2	48.387	
6	S6	2次	V	剥片	rh	1.8	1.1	0.4	0.4	48.550	
7	S7	2次	V	剥片	rh	5.3	3.9	1.0	21.2	48.400	
8	S8	2次	V	剥片	rh	2.6	3.3	1.2	12.0	48.583	1
9	S9	2次	V	剥片	rh	2.5	1.8	0.4	1.5	48.422	
10	S11	2次	V	ナイフ形石器	rh	5.0	2.7	1.8	19.4	48.443	
11	S1	2次	V	剥片	ch	2.8	1.6	1.1	4.5	48.235	
12	S2	3次	V	剥片	sh	2.8	2.3	0.4	2.7	48.305	
13	S3	3次	V	剥片	sh	5.7	5.7	1.3	42.5	48.146	
14	S4	3次	V	剥片	rh	1.8	2.0	0.2	0.6	47.995	
15	S5	3次	V	剥片	rh	4.9	2.6	1.0	8.1	48.238	
16	S6	3次	V	剥片	sh	5.2	4.3	1.2	18.7	48.186	
17	S7	3次	V	ナイフ形石器	rh	4.0	2.0	0.9	5.7	47.978	
18	S8	3次	V	剥片	rh	0.7	1.3	0.3	0.2	48.018	
19	S9	3次	V	石核	rh	2.6	4.7	2.6	47.8	48.056	33
20	S10	3次	V	剥片	rh	1.4	2.8	0.5	1.1	48.013	
21	S11	3次	V	石核	rh	4.0	6.2	3.7	98.3	48.262	
22	S12	3次	V	剥片	rh	1.5	1.0	0.2	0.25	48.166	
23	S13	3次	V	剥片	rh	1.7	1.0	0.3	0.45	47.993	
24	S14	3次	V	掻器	rh	4.1	4.5	1.6	30.6	47.943	
25	S15	3次	V	剥片	rh	4.5	5.0	1.8	34.2	48.127	
26	S16	3次	V	剥片	rh	5.9	3.7	1.4	28.8	48.316	
27	S17	3次	V	剥片	rh	4.4	3.8	1.1	16.1	48.294	
28	S18	3次	V	剥片	rh	2.4	3.0	0.9	6.8	48.212	
29	S19	3次	V	剥片	rh	0.9	0.5	0.3	0.1	48.172	
30	S20	3次	V	剥片	rh	4.3	4.6	1.2	19.9	48.122	
31	S21	3次	V	剥片	rh	2.8	0.9	0.4	1.3	48.340	
32	S22	3次	Ⅵ	剥片	rh	2.8	3.9	1.2	9.2	48.017	
33	S23	3次	Ⅵ下	剥片	rh	2.8	2.4	0.7	3.2	48.113	19
34	S24	3次	Ⅵ下	剥片	rh	1.4	0.7	0.3	0.15	47.972	
35	6	3次	V	礫	ss	5.3	3.8	1.4	42.8	48.421	
36	S10	2次	V上	礫	ss	8.5	5.7	2.5	122.1	48.426	
37	1	2次	Ⅲ	礫						48.758	
38	2	2次	Ⅲ	礫						48.799	
39	3	2次	Ⅲ	礫						48.799	
40	4	2次	Ⅲ	礫						48.740	
41	5	2次	Ⅲ	礫						48.796	
42	6	2次	Ⅲ	礫						48.805	
43	7	2次	Ⅲ	礫						48.845	
44	8	2次	Ⅲ	礫						48.755	
45	9	2次	Ⅲ	礫						48.868	
46	10	2次	Ⅲ	礫						48.776	
47	11	2次	Ⅲ	礫						48.836	
48	12	2次	Ⅲ	礫						48.825	
49	13	2次	Ⅲ	礫						48.808	
50	14	2次	Ⅲ	礫						48.780	
51	15	2次	Ⅲ	礫						48.790	
52	16	2次	Ⅲ	礫						48.821	
53	17	2次	Ⅲ	礫						48.817	
54	18	2次	Ⅲ	礫						48.840	
55	19	2次	Ⅲ	礫						48.808	
56	20	2次	Ⅲ	礫						48.865	
57	21	2次	Ⅲ	礫						48.887	
58	22	2次	Ⅲ	礫						48.886	
59	23	2次	Ⅲ	礫						48.848	
60	24	2次	Ⅲ	礫						48.717	
61	25	2次	Ⅲ	礫						48.686	
62	26	2次	Ⅲ	礫						48.682	
63	27	2次	Ⅲ	礫						48.671	
64	28	2次	Ⅲ	礫						48.663	
65	29	2次	V上	礫						48.528	
66	30	2次	V上	礫						48.488	
67	31	2次	V上	礫						48.507	
68	32	2次	V上	礫						48.510	
69	33	2次	V上	礫						48.517	
70	34	2次	V上	礫						48.465	

第１表　出土遺物観察表

報告書番号	遺物番号	調査次	層	器種	石材	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	レベル(cm)	接合状況
71	1	3次	V	礫	ss	6.0	2.8	1.3	20.7	48.277	
72	2	3次	Ⅳ	礫	ss	6.0	4.8	3.9	141.2	48.377	
73	3	3次	Ⅳ	礫	gr	3.4	1.8	1.5	8.3	48.395	
74	4	3次	Ⅳ	礫	ss	5.5	3.4	1.9	29.3	48.405	
75	5	3次	Ⅳ	礫	co	6.0	6.0	3.9	233.8	48.445	
76	7	3次	V	礫	ch	4.5	3.0	2.8	45.1	48.407	
77	8	3次	V	礫	rh	7.3	2.0	1.7	35.7	48.348	
78	9	3次	V	礫	ss	4.0	1.7	1.3	12.1	48.322	
79	10	3次	V	礫	ss	8.0	3.0	2.0	91.0	48.315	
80	11	3次	V	礫	ss	8.3	5.0	2.3	108.8	48.262	
81	12	3次	V	礫	ss	7.8	2.8	2.5	77.4	48.190	
82	13	3次	Ⅳ	礫	ss	7.0	5.4	3.9	32.3	48.157	
83	14	3次	Ⅳ	礫	ss	5.0	3.8	3.0	40.3	48.140	
84	15	3次	V	礫	rh	4.0	3.9	1.5	24.7	48.300	
85	16	3次	V	礫	ph	2.9	2.0	1.0	7.2	48.162	
86	17	3次	V	礫	ph	4.0	2.3	1.9	10.1	48.240	
87	18	3次	V	礫	ss	5.5	4.4	0.5	20.3	48.280	
88	19	3次	V	礫	ss	6.8	3.0	2.0	41.2	48.380	
89	20	3次	V	礫	ss	2.5	2.4	0.5	3.1	48.415	
90	21	3次	V	礫	ss	4.7	4.1	3.7	82.1	48.421	
91	22	3次	撹乱	礫	rh	5.0	2.8	1.7	25.4	48.445	
92	24	3次	Ⅳ	礫	rh	3.4	1.7	1.3	6.8	48.490	
93	25	3次	Ⅳ	礫	ss	7.0	3.5	3.0	85.4	48.533	
94	26	3次	Ⅳ	礫	co	5.0	4.5	3.0	91.7	48.504	
95	27(1)	3次	V	礫	ss	4.9	2.8	2.0	34.1	48.586	
96	27(2)	3次	Ⅳ	礫	sh	4.2	3.0	1.5	17.1	48.586	
97	28	3次	Ⅳ	礫	ss	4.7	4.5	3.5	54.4	48.533	
98	29	3次	Ⅳ	礫	gr	4.3	2.3	1.3	11.6	48.507	
99	30	3次	Ⅳ	礫	ss	6.5	5.0	1.5	57.9	48.512	
100	31	3次	Ⅳ	礫	rh	3.5	2.5	2.4	29.4	48.420	
101	32(1)	3次	Ⅳ	礫	rh	4.5	3.4	2.0	38.4	48.476	
102	32(2)	3次	Ⅳ	礫	rh	7.0	3.8	3.0	61.7	48.476	
103	33	3次	Ⅳ	礫	sh	4.3	3.8	0.5	9.1	48.443	
104	34	3次	Ⅳ	礫	ch	5.0	4.0	3.3	67.3	48.413	109
105	35	3次	Ⅳ	礫	ss	6.0	5.0	2.9	98.1	48.440	
106	36	3次	Ⅳ	礫	ss	3.0	2.5	0.9	6.8	48.445	
107	37	3次	Ⅳ	礫	ss	7.0	5.5	2.8	120.1	48.423	
108	38	3次	Ⅳ	礫	rh	7.0	3.8	2.0	58.9	48.436	
109	39	3次	Ⅳ	礫	ch	4.2	3.6	2.0	55.6	48.430	104
110	40	3次	Ⅳ	礫	ss	5.0	4.8	2.0	52.0	48.442	
111	41	3次	Ⅳ	礫	sh	6.4	5.0	4.0	146.0	48.513	
112	42	3次	V	礫	ss	4.0	3.4	2.3	27.8	48.520	
113	43	3次	Ⅳ	礫	rh	5.6	4.0	3.0	64.2	48.533	
114	44	3次	V	礫	co	3.5	2.6	1.8	13.0	48.516	
115	45	3次	V	礫	co	2.8	2.3	1.5	10.4	48.526	
116	46	3次	Ⅳ	礫	ss	7.2	5.0	3.0	136.7	48.493	
117	47	3次	Ⅳ	礫	ss	4.4	3.5	1.3	29.0	48.477	
118	48	3次	Ⅳ	礫	rh	4.0	3.9	1.7	23.0	48.465	
119	49	3次	V	礫	ss	15.0	13.5	11.0	2700.0	48.500	
120	50	3次	Ⅳ	礫	gr	5.0	4.2	2.0	50.9	48.560	
121	51	3次	Ⅳ	礫	ss	8.9	3.0	2.9	69.4	48.590	
122	52	3次	Ⅳ	礫	ss	4.4	3.3	1.0	15.5	48.600	
123	53	3次	Ⅳ	礫	ss	8.0	4.5	4.0	193.3	48.616	
124	54	3次	Ⅳ	礫	rh	7.1	4.2	3.6	84.4	48.562	
125	55	3次	V	礫	rh	4.7	4.0	1.7	27.9	48.418	
126	56	3次	Ⅳ	礫	ss	2.5	1.9	1.5	6.3	48.348	
127	57	3次	V	礫	rh	20.0	13.5	12.0	4400.0	48.197	
128	58	3次	V	礫	ss	5.0	3.0	2.0	20.4	48.078	
129	59	3次	V	礫	ss	4.0	3.0	1.4	20.8	48.082	
130	60	3次	V	礫	ss	6.0	3.5	1.9	34.7	48.042	132
131	61	3次	V	礫	ss	10.3	6.0	3.5	271.0	48.000	
132	62	3次	V	礫	ss	6.4	3.6	3.0	76.3	48.057	130
133	63(1)	3次	V	礫	ss	8.4	4.2	3.3	67.5	47.922	
134	63(2)	3次	V	礫	gr	5.0	5.0	1.7	54.4	47.922	188
135	64	3次	V	礫	ss	3.9	3.7	1.0	28.3	48.430	
136	65	3次	V	礫	ss	3.9	2.5	1.4	10.3	48.410	205
137	66	3次	V	礫	co	5.0	2.8	1.5	19.2	48.258	
138	67	3次	V	礫	ss	6.7	4.1	2.5	55.1	48.445	
139	68	3次	V	礫	ss	8.4	4.6	3.5	172.2	48.342	
140	69	3次	V	礫	rh	4.6	3.0	1.2	12.5	48.342	141

第１表　出土遺物観察表

報告書番号	遺物番号	調査次	層	器種	石材	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	レベル(cm)	接合状況
141	70	3次	V	礫	rh	6.3	2.8	2.0	31.7	48.266	140
142	71	3次	V	礫	ph	4.5	3.0	0.8	17.1	48.230	
143	72	3次	V	礫	ss	11.8	8.4	6.5	665.3	48.212	
144	73	3次	V	礫	ss	6.4	5.8	2.5	123.8	48.180	
145	74	3次	V	礫	rh	2.7	2.7	1.2	4.1	48.156	
146	75	3次	V	礫	ss	10.3	5.4	5.0	226.1	48.120	157
147	76	3次	V	礫	rh	2.1	1.6	0.8	1.2	48.028	
148	77	3次	V	礫	rh	2.2	1.6	0.8	2.3	48.120	
149	78	3次	V	礫	ss	6.6	3.6	2.0	45.3	48.388	
150	79	3次	撹乱	礫	co	4.0	3.6	2.7	40.3	48.434	
151	80	3次	V	礫	gr	5.9	4.0	2.1	47.0	48.455	
152	81	3次	V	礫	ss	5.5	4.3	2.3	50.6	48.465	
153	82	3次	V	礫	rh	4.2	3.1	0.7	17.3	48.272	
154	83	3次	V	礫	ss	5.5	2.6	1.8	48.4	48.298	
155	84	3次	V	礫	ss	6.0	3.1	2.7	37.8	48.302	
156	85	3次	V	礫	rh	3.0	2.4	0.9	6.9	48.250	
157	86	3次	V	礫	ss	6.6	4.0	3.3	87.2	48.218	146
158	87	3次	V	礫	ss	4.0	3.6	2.1	18.6	48.285	
159	88	3次	V	礫	ss	4.3	2.7	1.2	14.7	48.058	
160	89	3次	V	礫	ss	5.0	2.8	2.0	37.9	47.985	
161	90	3次	V	礫	gr	8.2	4.6	3.5	107.8	47.965	162
162	91	3次	V	礫	gr	6.0	3.6	3.0	80.8	48.055	161
163	92	3次	V	礫	ph	4.7	2.6	1.0	14.3	48.070	
164	93	3次	V	礫	rh	3.1	2.2	0.9	6.6	48.463	
165	94	3次	V	礫	ss	7.6	6.5	2.4	125.4	48.265	
166	95	3次	V	礫	ss	6.0	4.8	3.2	72.9	48.492	
167	96	3次	V	礫	rh	4.2	4.0	2.0	37.6	48.354	
168	97	3次	V	礫	ph	2.0	1.0	0.4	0.3	48.474	
169	98	3次	V	礫	ss	4.1	2.8	2.0	23.0	48.376	
170	99	3次	V	礫	ss	2.6	1.1	1.1	2.5	48.333	
171	100	3次	V	礫	co	3.2	2.0	1.6	6.8	48.322	
172	101	3次	V	礫	co	3.5	2.2	2.0	10.4	48.272	
173	102	3次	V	礫	gr	15.6	11.6	9.0	1400.0	48.088	
174	103	3次	V	礫	co	7.7	5.6	3.8	215.0	48.220	
175	104	3次	V	礫	gr	6.6	6.6	3.7	184.1	48.232	
176	105	3次	V	礫	ss	10.0	7.9	5.5	532.7	48.202	
177	106	3次	V	礫	rh	10.7	5.6	4.7	360.0	48.200	
178	107	3次	V	礫	ss	9.1	7.4	4.4	274.5	48.081	179/180/181/182
179	108	3次	V	礫	ss	10.0	5.4	3.4	229.0	48.082	178/180/181/182
180	109	3次	V	礫	ss	8.4	5.6	2.6	141.4	48.075	178/179/181/182
181	110	3次	V	礫	ss	5.9	3.5	2.4	51.0	48.090	178/179/180/182
182	111	3次	V	礫	ss	9.6	5.6	4.2	170.4	48.120	178/179/180/181
183	112	3次	Ⅳ	礫	ss	6.0	3.4	1.6	34.7	47.963	191/208
184	113	3次	Ⅳ	礫	ss	6.9	4.6	4.2	189.6	47.970	
185	114	3次	Ⅳ	礫	ss	6.5	4.0	1.9	59.2	47.970	
186	115	3次	Ⅳ	礫	ss	11.0	5.9	5.0	336.2	47.968	
187	116	3次	Ⅳ	礫	rh	9.8	6.6	4.0	320.0	47.943	
188	117	3次	Ⅳ	礫	gr	7.9	5.0	1.9	87.4	47.934	134
189	118	3次	Ⅳ	礫	ph	8.5	3.9	1.1	38.9	47.905	
190	119	3次	Ⅳ	礫	rh	6.8	6.6	1.6	111.3	47.900	
191	120	3次	Ⅳ	礫	ss	8.4	5.5	2.3	101.0	47.892	183/208
192	121	3次	Ⅳ	礫	co	9.0	5.4	2.8	140.0	47.900	
193	122	3次	Ⅳ	礫	rh	13.3	7.0	2.9	391.9	47.908	
194	123	3次	Ⅳ	礫	ss	5.7	5.1	3.0	102.7	47.915	
195	124	3次	Ⅳ	礫	ss	10.7	5.6	2.4	189.4	47.876	
196	125	3次	Ⅳ	礫	rh	8.0	6.4	3.6	209.7	47.896	
197	126	3次	Ⅳ	礫	sh	9.0	5.8	2.0	117.2	47.855	
198	127	3次	Ⅳ	礫	ss	8.2	5.7	4.1	234.0	47.865	
199	128	3次	V	礫	ss	2.7	2.0	0.7	2.7	48.282	
200	129	3次	Ⅵ	礫	ss	9.1	7.6	2.0	182.9	48.192	
201	130	3次	Ⅵ	礫	ss	7.5	3.7	2.0	57.6	48.178	
202	131	3次	Ⅵ	礫	ss	8.7	7.0	2.9	155.5	48.214	
203	132	3次	Ⅵ	礫	co	8.8	6.4	3.5	164.3	48.186	
204	133	3次	Ⅵ	礫	ss	7.4	6.5	2.0	122.2	48.208	
205	134	3次	Ⅵ	礫	ss	7.6	5.9	2.8	146.2	48.202	136
206	135	3次	Ⅵ	礫	ss	8.4	5.5	3.7	179.6	48.183	
207	136	3次	Ⅵ	礫	ss	7.2	4.6	3.6	123.8	48.166	
208	137	3次	Ⅵ下	礫	ss	5.2	3.0	1.8	20.2	47.854	183/191

rh: 流紋岩類　ｓｓ：砂岩類　ｓｈ：頁岩類　ｇｒ：花崗岩類　co：礫岩類　ｃｈ：チャート類　ph：千枚岩類

第Ⅳ章　まとめ

細見川下流域と五ヶ瀬川との合流地点付近は、以前から畑地等で遺物が表採されるなど、多くの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する。平成元年の上南方地区遺跡（中尾原遺跡・山口遺跡・畑山遺跡）の発掘調査を皮切りに、埋蔵文化財の発掘調査が行われ、旧石器時代～中世期の遺構・遺物が数多く出土している。最新の調査は宮崎県埋蔵文化財センターが、平成14(2002)年から一般国道２１８号北方延岡道路建設に伴い行った山口遺跡第２地点、山田遺跡の２遺跡が挙げられる。この２遺跡の発掘調査でも多くの遺構・遺物が出土し、この地域の歴史の解明に新たな資料を提供している。これらの調査の成果において、特に弥生時代後期～古墳時代後期にかけての住居跡は、その立地や時期に興味深い分布を見せている。今回の調査で住居跡をはじめ、この時期の遺構・遺物が出土していないのは残念であった。

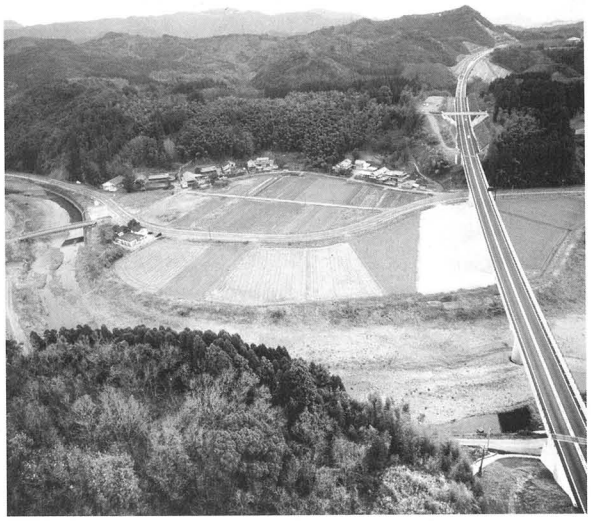
今回の調査地では、旧石器のみの出土であった。同一丘陵上で行われた調査、畑山遺跡（1990年）、山田遺跡(2002～2004年)の２遺跡は、ともに旧石器時代の遺構・遺物等が出土している。これらの遺跡の調査成果と、今回の調査資料を照らし合わせることで、まとめとしたい。

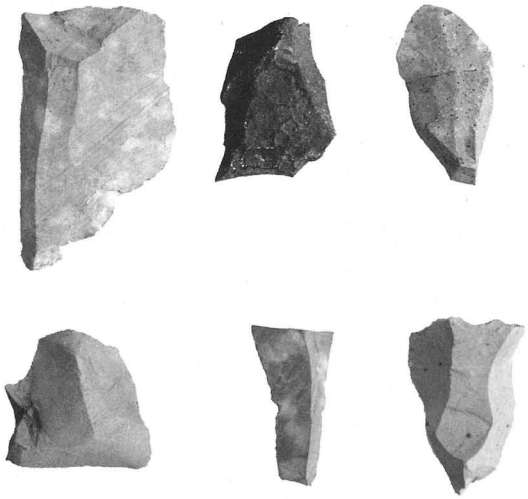
まず、層序の比較であるが、今回の調査で遺物が出土しているⅢ層は縄文時代早期の包含層にあたる。このⅢ層は畑山遺跡の第Ⅲ層にあたり、山田遺跡ではⅢ～Ⅴ層に相当するものと考えられる。畑山遺跡では第Ⅲ層～第Ⅳ層上面で礫群や集石遺構を検出し、礫の間から押型文土器・石鏃・磨石・凹石が出土している。特に石鏃は百点近く出土している。山田遺跡では遺構・遺物が最も多く検出された層である。集石遺構・炉穴群・円形配石遺構等の遺構が検出され、無文土器・条痕文土器や石鏃、剥片等の遺物が出土している。今回の調査では、礫の出土に伴い、大形の礫器(Fig.6-3)が出土している。また、今回の調査で最も多く遺物が出土したⅤ層は、畑山遺跡の第Ⅴ層にあたり、山田遺跡のⅥ～Ⅷ層に相当するものと考えられる。このⅤ層は五ヶ瀬川流域での調査において、明確に分層されることもあるが、今回の調査で分層することが出来なかった。Ⅶ層の姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）下位の石器群は、その存在と研究が行われだして久しいが、近年、延岡市周辺の調査では、さらに下層のⅨ層の調査が精力的に行われている。畑山遺跡、山田遺跡ともにＡＴ下位の石器群が検出されているが、今回の調査では調査期間等の制限もあり、充分な調査を行えていない。

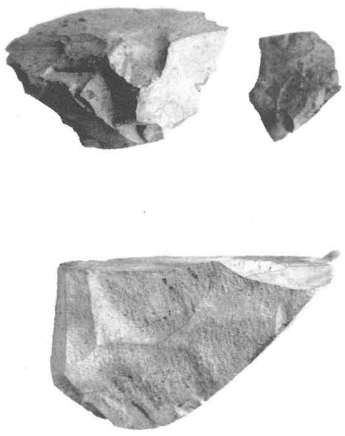
今回の調査では調査範囲も狭く、最も期待されたⅡ～Ⅲ層が撹乱により充分な調査が出来ずに、遺構・遺物ともに密度が薄かった。比較的に出土の多かったⅣ～Ⅵ層も密度は薄いものであった。地形的に台地の縁辺部であり、また丘陵が一度狭くなるくびれ部にあたり、旧地形では谷が深く入る様子が調査で確認された。また、調査地から北の丘陵のピークに向けて、徐々に高くなる傾斜変換点にあたる。以上のような点から、今回の調査地は、山田遺跡の一つの縁辺にあたると考えられ、遺跡の範囲を確定する一つの資料を提示できたことは大きな成果である。

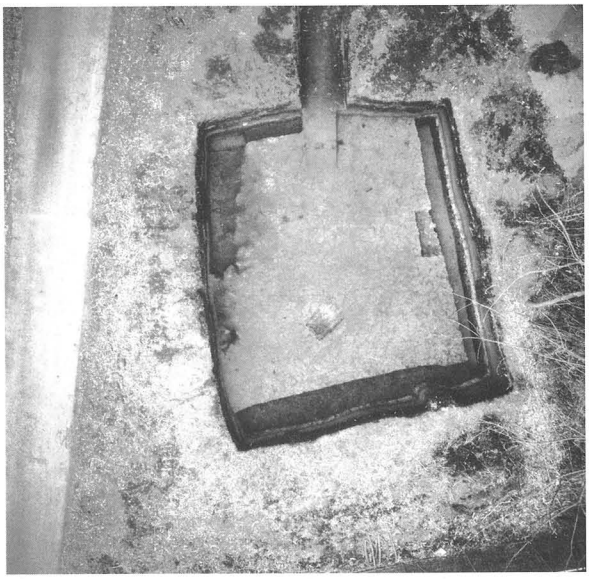
山田遺跡の第２次及び第３次調査には、発掘作業員として小野君子・小野昭治・甲斐さよみ・甲斐ひとみ・甲斐如高・甲斐洋子・工藤洋子・中川文夫（50音順）が参加した。資料整理作業は敷石サヨ子・野崎史葉・藤本千鳥・森有美・山本敬子（50音順）が行った。

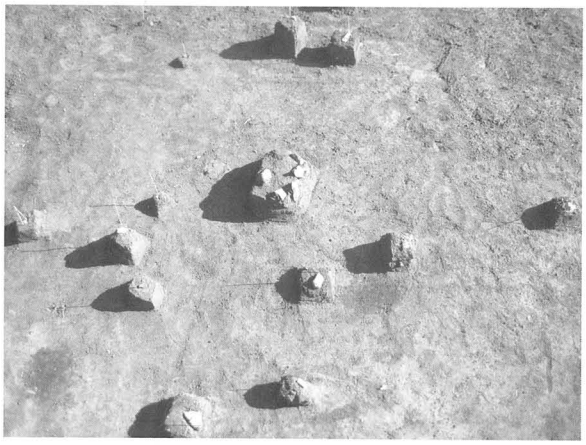
最後になりましたが、原因者である株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ及び施工者である株式会社加賀城建設には、確認調査の段階から協議等に御理解、御協力をいただいた。また、調査の過程において、地権者や国土交通省延岡河川国道事務所・宮崎県土木事務所等に駐車場用地や残土置き場について、便宜を図っていただき、調査中は周辺住民の方々にもご協力いただいた。記して感謝します。

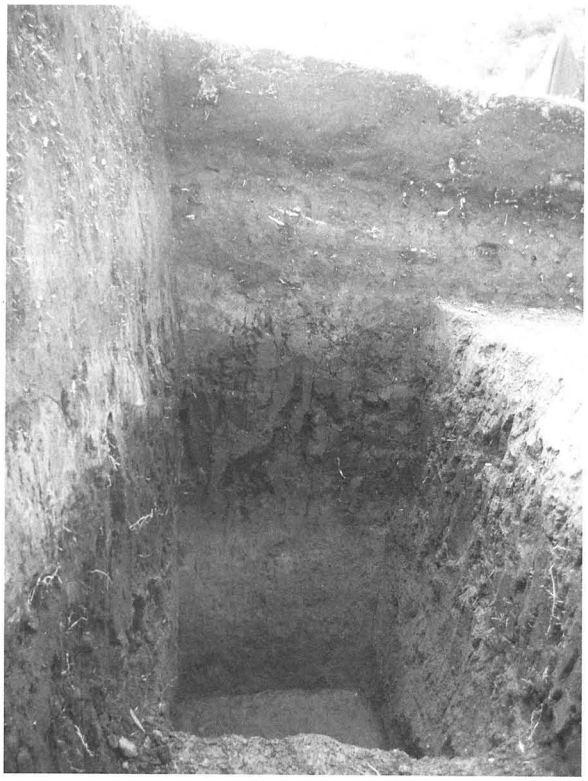












P18 左上から

PL. 1　出土遺物 1

PL. 2　出土遺物 2

PL. 3　出土遺物 3

PL. 4　遠景（西側より）

PL. 5　遠景（南側より）

PL. 6　全景（空撮）

P19 左上から

PL. 7　遺物等出土状況

PL. 8　遺物等出土状況

PL. 9　全景(Ⅶ層上面)

PL.10　旧地形落ち込み

PL.11　土層状況

PL.12　作業風景

報告書抄録

ふりがな	やまだいせき
書名	山田遺跡（第3次）
副書名	携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	延岡市文化財調査報告書　第39集
著者名	尾方　農一
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路2番地1
発行年月日	2009(平成21)年3月31日
所収遺跡名	山田遺跡（第3次）
所在地	宮崎県延岡市小川町4158-3
市町村コード	452033
遺跡コード	4015
北緯	32° 34′ 19″
東経	131° 34′ 45″
調査期間	2008（平成20）年12月3日～12月26日
調査面積	100㎡
調査原因	携帯電話無線基地局建設
種別	散布地
主な時代	旧石器
主な遺構	散礫
主な遺物	ナイフ形石器・礫器・掻器・石核・剥片
特記事項	なし

山田遺跡（第３次）

延岡市小川町携帯電話無線基地局建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

延岡市文化財調査報告書第３９集
平成２１年３月３１日

発行：延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路２－１

印刷：安井株式会社
宮崎県東臼杵郡門川町大字加草2725番地